

目的・ 目標

舞台芸術・音楽分野において、世界で活躍するアート・クリエイターを育成するとともに、その活動を支えるハウススタッフを充実させ、また映像メディアの活用によって、日本の現代舞台芸術の魅力をグローバルに発信する拠点としての機能強化を目指す。

概要

令和8年度から就任する芸術監督は、グローバルに活躍しており、そのネットワークを生かして後進の育成に取り組む。まず、当館の国際経験豊かな幹部職員と共に、ポテンシャルの高い若いクリエイターや、スタッフを選抜する。そして、芸術監督や館の事業によるオンジョブトレーニング、それぞれの企画のメンタリングを通じて、彼らが作品を創作して国内および海外に発信するまでを、一貫して指導する。

映像メディアについては、舞台映像のプロモーション及びドキュメンテーション、アーカイヴ構築などを体系立てて取り組む協働チームを育成する。

国内公演【計2回】

- ・ パフォーミングアーツ公演（2026年）
- ・ 音楽公演（2026年）

海外公演【計2回】

- ・ パフォーミングアーツ公演（2028年）
- ・ 音楽公演（2028年）

3年目までの取組

1年目に、育成するクリエイターおよびスタッフを選出。育成対象者は、クリエイション・海外公演向けたりサーチを行い、国際共同制作や海外での創作に参加して現場経験を積む。また、短期ワークショップやワーク・イン・プログレス発表等を重ね、作品づくりを進めていく。3年目には、舞台芸術・音楽プロジェクトそれぞれの東京芸術劇場で公演を実施。また、プロジェクトの創作過程は、写真・映像により随時、記録・発信する。



5年目までの取組



舞台芸術プロジェクトは、1年目と同様に公募を実施し、2期目の育成対象クリエイターを選抜。また、3年目に公演を行わなかったクリエイターの作品を国内上演する。音楽プロジェクトでは、海外公演に向けて、前年度の国内公演のブラッシュアップや追加りサーチを行う。

5年目には、舞台芸術・音楽両プロジェクトの海外公演を実施する。映像チームの活動、国際ネットワークの拡充も引き続き継続する。

成果目標（見込）	目標値
文化施設の公演活動に対する専門誌・専門家・批評家等による評価数（高評価）	6件
デジタル作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数	10件
国内公演における、海外のプロデューサー、フェスティバルディレクター等の来場者数	12名

中核となるクリエイターやアドバイザー

岡田利規

（令和8年度からの芸術監督）

演劇作家、小説家、演劇カンパニー「チエルフィッシュ」主宰。



©宇壽山貴久子

山田和樹

（令和8年度からの芸術監督）

指揮者。モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督兼音楽監督、バーミンガム市交響楽団の首席指揮者兼アーティストティックアドバイザー。



© Zuzanna Special

育成対象者：15名

【パフォーミングアーツ アート・クリエイター】 額田大志、山崎阿弥
【音楽 アート・クリエイター】 長瀬善則、布施砂丘彦、吉野良祐

【映像メディアチーム】 銀色なつみ、近藤圭真、齋藤千春、松本桂
【インハウススタッフ】 黒田忍、吉田直美、前久保諒、山下直弥、行方太一、松島千裕

【補足資料】実施体制

